

# SUPの事故発生状況

---

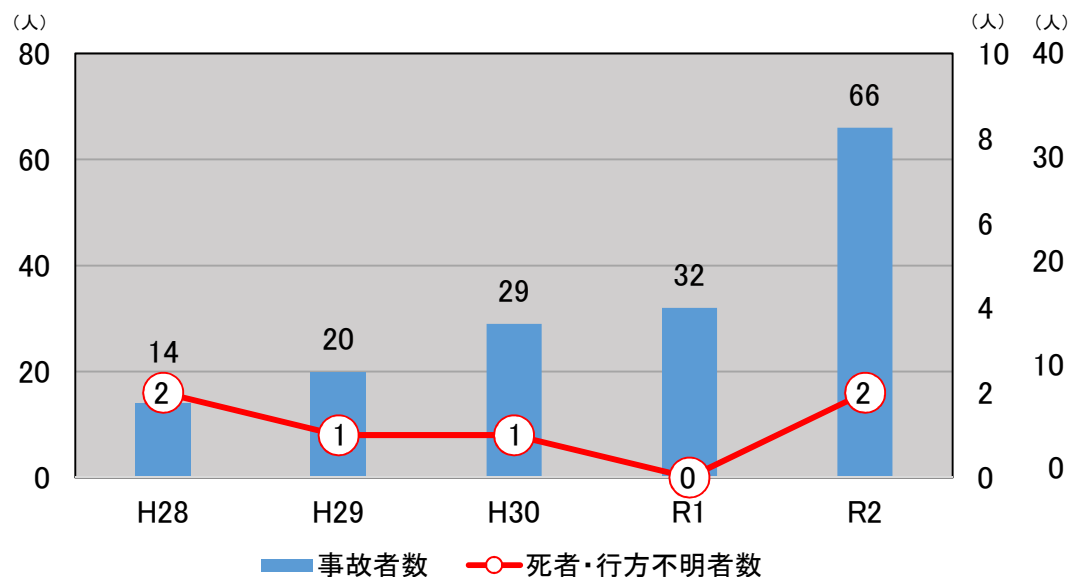
海上保安庁

交通部安全対策課

令和3年3月9日

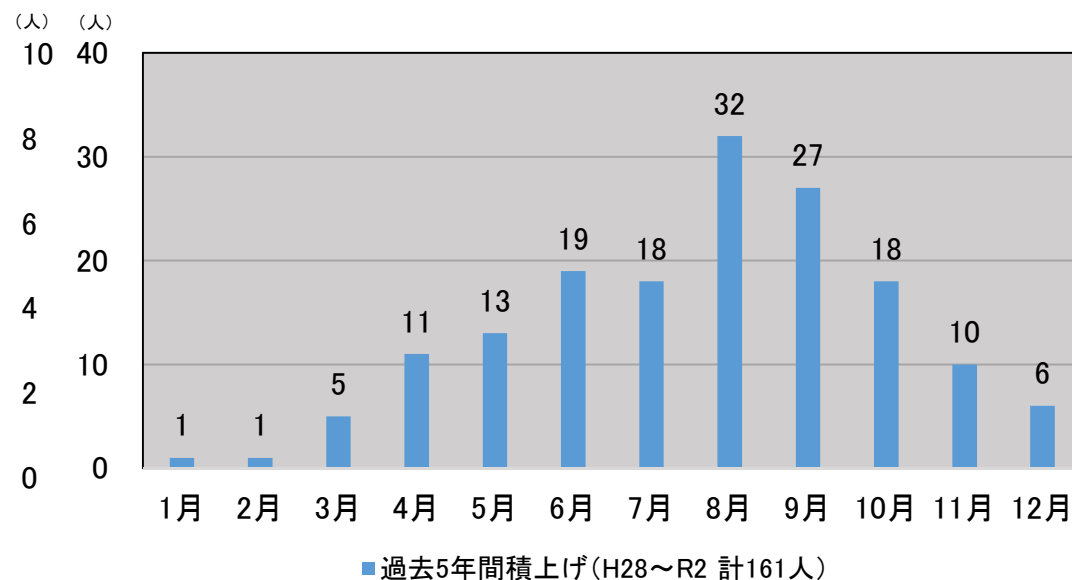


## ①事故の推移(過去5年間)



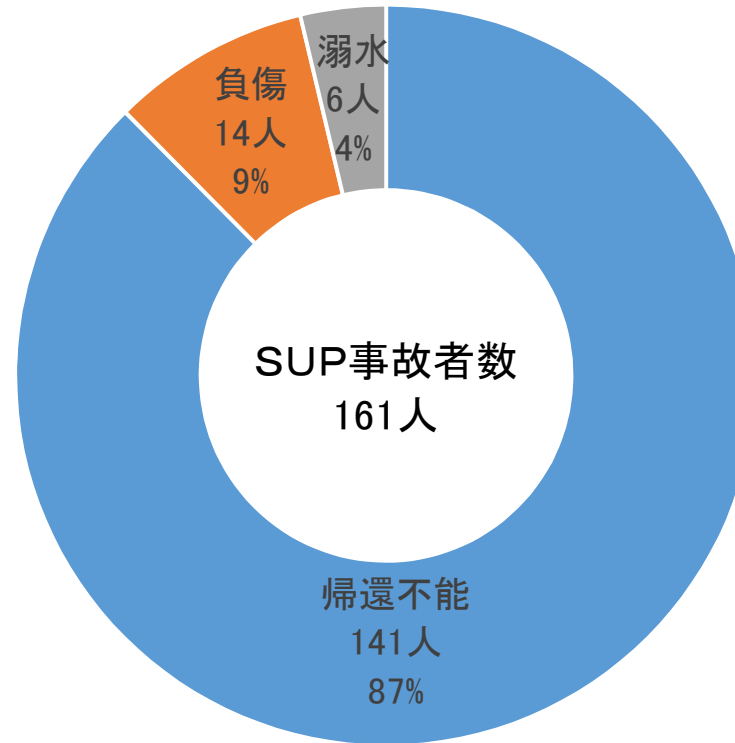
- 事故者は年々増加傾向にあり、令和2年は66人で過去5年間で最も多い。
- 死者・行方不明者は例年1人前後である。

## ②事故の推移(月別)



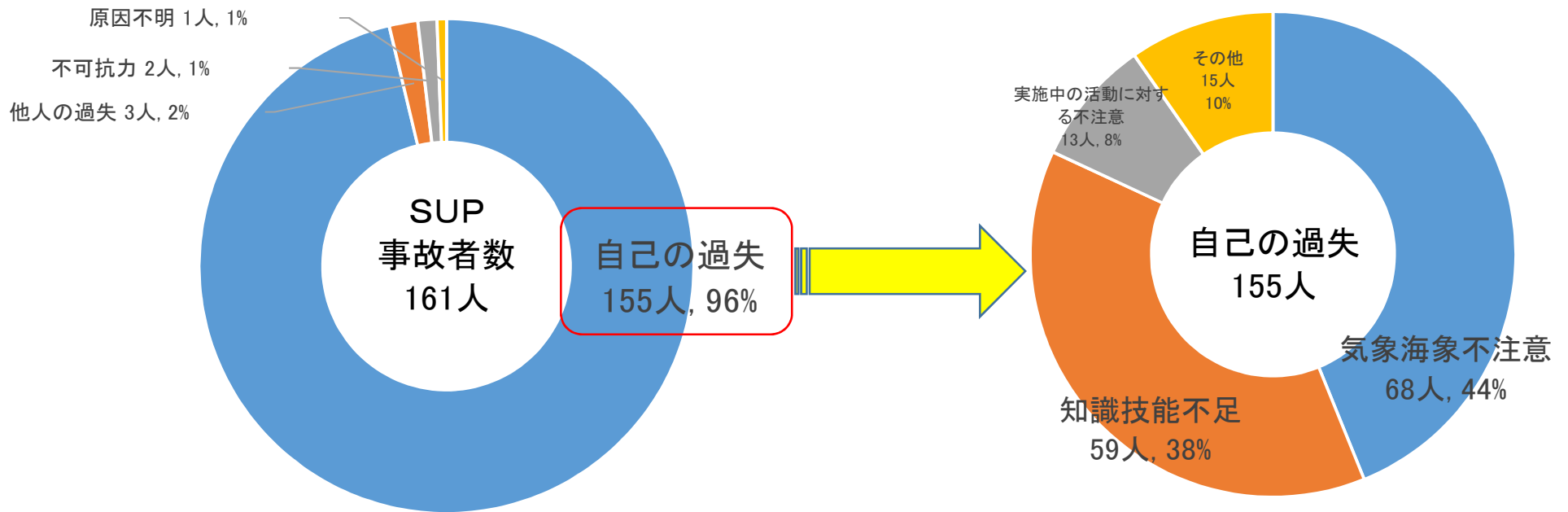
- 事故は、春季～秋季において発生し、夏季にピークを迎える。

## ③事故内容別の割合(平成28年～令和2年)



- 事故内容別では、帰還不能が141人(87%)で最も多い。

## ④事故原因別の割合(平成28年～令和2年)



- 事故原因別では、事故者161人中155人(96%)が自己の過失によるもので、うち気象海象不注意と知識技能不足が155人中127人(82%)となっている。

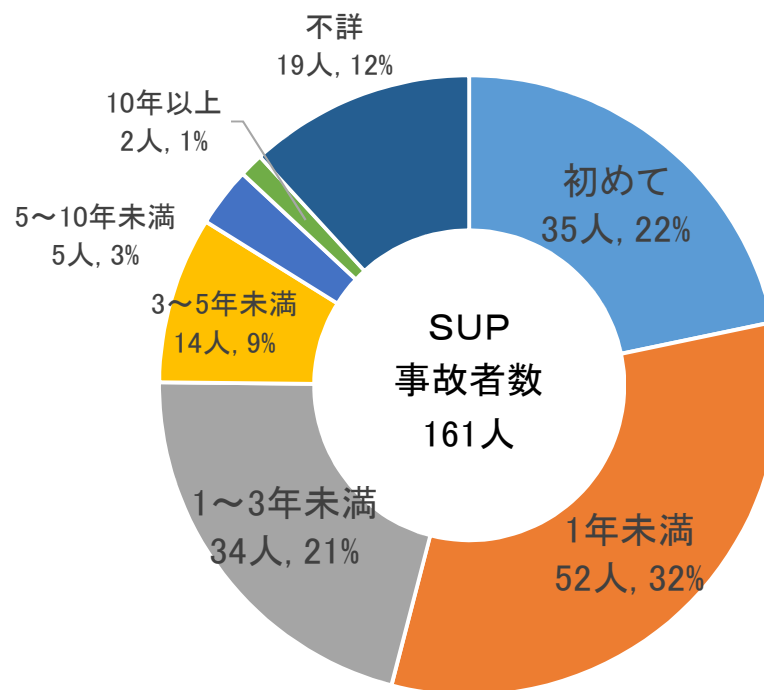
**気象海象不注意**とは・・・気象・海象の判断を誤り、あるいは気象警報等に対する無関心が原因で事故が発生した場合

事件事例: 事故者らは、**悪天候にも関わらず陸岸から近い場所なら沖合に流されることはない**と判断し、SUPツーリングを始めたところ、出発してすぐに沖合に流され始め、海上保安庁航空機等により吊り上げ救助された。**※事故当時の気象海象: 風速10m/s、波高1.5m、海上濃霧警報発令中**

**知識技能不足**とは・・・安全運航する上で必要となる知識・技能が不足していることが原因で事故が発生した場合

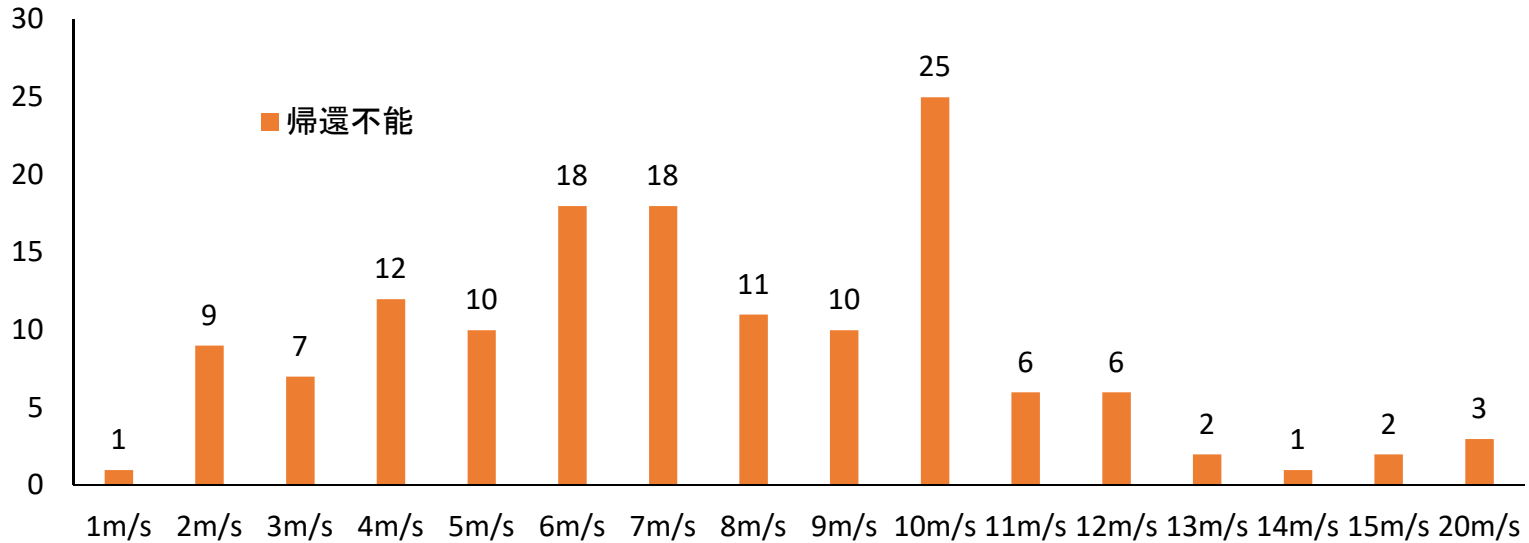
事件事例: 事故者は、SUPツーリング中に進行方向を浜の方向へ変えようと試みた直後にSUPから海中転落。**リーシュコードを装着していなかったことから沖合に流されていくSUPに追いつくことが出来ずに漂流**していたところ、通り掛かった水上オートバイに救助された。

## ⑤経験年数別の割合（平成28年～令和2年）



➤ 経験年数別では、経験が浅い者の事故割合が高い。

## ⑥ 海難発生時の風速とSUP事故者数(平成28年～令和2年)



## ⑦ 海難発生時の波高とSUP事故者数(平成28年～令和2年)

